

東京バッハ合唱団 月報

[第 634 号] 2015 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 634

April 2015

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

新学年の抱負——将来を見据えての選曲案

大村 恵美子 (主宰者)

日本でも、先進諸国に揃えて、秋に始まる学年制を取りこもうということになったようです。でも当分の間、私たちは、これまでの慣習からふっ切れないで、全国平均的に桜の開花する 4 月を入学・始業と結びあわせ、ジンチョウゲ (沈丁花) の香る 3 月を卒業・終業と結びあわせる気持ちが残ることでしょう。

それに比べて、年間 2 学期制になると、東京ではさしずめキンモクセイ (金木犀) の香りが秋の前ぶれとなるでしょうが、これが全国的に共通かどうか、私にはわかりません。とにかく現在ではまだ、4 月を迎えると、今さらながら、こんなにもあったのかとびっくりするほど、日本中、そして自分の近隣のそこそこで、桜が咲ききそって、空まで蔽いつくすのです。そして、お花見が一段落して、雪のように花びらが舞い踊るころに、ピカピカの一年生の入学式が行なわれるのです。

東京バッハ合唱団の場合は、創立が、学年制とは無関係に、これから盛夏を迎えてサルスベリ (百日紅) の花がぼったりと色づいてくる 7 月 1 日となりました。そして、公演の時期としてだんだん定着してきたのは、12 月に多い、クリスマス・新年を内容とする大規模編成のカンタータ、春に多い、日常生活を内容とするアンサンブル風の小規模カンタータ、という 2 回の定期演奏会を、中心とするスタイルです。したがって 12 月定演が終って、年間でいちばん長い冬休みがすぎると、新年から次の新しいプログラム曲目の譜読みが始まることになるのです。

*

ところで、こここのところ、今年は初めて東京ではない所で、8 月に定演 (第 112 回、南相馬) を試みるようになったので、今までの慣習と変わってきて、次の第 113 回定演は、来年 2016 年 5 月 28 日 (土、府中の森) となり、そこから先は、多様な進め方の案が渦巻いてきています (予定、次ページ囲み参照)。

これまでと異なるところは、数年ごとに 5 回つづけて来たドイツ中心のヨーロッパ旅行が、受容側のベルリンのアンメ牧師 (一貫して完璧な場の提供者でいらした) の逝去によって宙に浮いたこと、創立以来ほぼ毎年合宿・コンサートをつづけて来た野尻湖畔の 8 月行事が、今年は同じ時期に東日本被災地との合同演奏会と重なってとりやめとなったこと、後者は今後も断

続的につづけたいが、8 月 22 日の初体験が終わってからでなければ、その先がわからない。したがって、国外旅行も、野尻湖行事も、見通しが立たない。

現在、私の心中では、大ざっぱに春の小規模編成オケによるもの、冬の大規模編成オケによるもののプログラムづくりをして、移動の容易な夏の国内の地方演奏を、適宜に間に調整してみたい。とりあえずは、これまでに手がけていない未演奏カンタータ 62 曲の中から、種々の面から考えて実現性の高い 17 曲を、なるべく早い時期に定演にとり入れたいと思います。

このように思って、いちおう、その 17 曲を公表してみることにしました (下掲。次ページに、各曲の構成・成立時期・曲数・演奏時間の一覧表) ——200 曲全曲の訳詞はすでに完了しています——。この時点でも、多くの方々から、大いに意見を伺わせていただければありがたいと思います。たとえば、過去のある時期に、有名な BWV 4 《キリスト死に繋がれしが》が、なかなか再演されない、と言いつづけていた団員があったので、とりあげたのに、もう待ちきれなかったその方は、上演決定の直前に退団してしまわれたこともありました。

人生は、ずいぶん寿命が延びたけれど、それでも限りあるものです。主宰者だけでなく、死ぬまでにぜひこれを、という多くの方々のあつい願望にも、できるだけお応えしたいと思っています。再演曲のご希望も、どんどんお寄せください。訳語つきの新しい楽譜出版には、実演前いくばくかの期間と資金を考える必要があるからです。

<主宰者案・新曲カンタータ候補>

- ① BWV 32 《いとしきわがイエス わが望み》
- ② BWV 33 《ただイエス君にのみ》(コラール・カンタータ)
- ③ BWV 34 《おお永遠(とわ)の火よ おお愛の源よ》
- ④ BWV 73 《生くるも死ぬるも み心のまま》
- ⑤ BWV 74 《われをば愛する者 われに従え》
- ⑥ BWV 88 《見よ われ 多くの漁師を遣わし》
- ⑦ BWV 94 《いかで 世を問わん》(コラール・カンタータ)
- ⑧ BWV 95 《キリスト わがいのち》
- ⑨ BWV 96 《キリスト 神のひとり子》(コラール・カンタータ)
- ⑩ BWV 109 《われは信ず わが主よ 助けたまえ》

- ⑪ BWV 113 《イエス 高き宝》(コラール・カンタータ)
- ⑫ BWV 115 《備えよ心 目覚め祈れ》(コラール・カンタータ)
- ⑬ BWV 118 《おおいエス 命の光》(モテット)
- ⑭ BWV 125 《われは去りゆく 安らかに》(コラール・カンタータ)
- ⑮ BWV 166 《あまたの苦しみをへて 入るべし》
- ⑯ BWV 174 《心つくし われ 主を愛す》
- ⑰ BWV 188 《わが堅き望み》

<各曲の編成・成立時期・曲数・演奏時間>

	BWV	編成	初演	曲	分
①	32	S 合 ob	1726.1	6	22
②	33	ATB 合 ob2	1724.9	6	21
③	34	ATB 合 tp3 tm fl2 ob2	1746/47	5	18
④	73	STB 合 hn ob2	1724.1	5	15
⑤	74	SATB 合 tp3 tm ob2 obc	1725.5	7	21
⑥	88	SATB 合 hn2 oba2 obc	1726.7	7	22
⑦	94	SATB 合 fl ob2 oba	1724.8	8	25
⑧	95	STB 合 hn ob2 oba	1723.9	7	22
⑨	96	SATB 合 hn(tb) fl fl-pic ob2	1724.10	6	20
⑩	109	AT 合 hn ob2	1723.10	6	25
⑪	113	SATB 合 fl ob2 oba2	1724.8	8	26
⑫	115	SATB 合 hn fl oba	1724.11	6	22
⑬	118	合 ob3 fg lituo2 (第2稿)	1736/37	1	10
⑭	125	STB 合 hn fl ob oba	1725.2	6	24
⑮	166	ATB 合 ob	1724.5	6	17
⑯	174	ATB 合 hn2 ob2 obc	1729.6	5	23
⑰	188	SATB 合 ob2 obc og	1728.10	6	24

[凡例]

SATB:独唱, 合:合唱, fg:ファゴット, fl:フルート, fl-pic:ピッコロ, hn:ホルン, lituo:曲がった杖型のラッパ, ob:オーボエ, oba:オーボエ・ダモアレ, obc:オーボエ・ダ・カッチャ, og:オルガン, tb:トロンボーン, tm:ティンパニ, tp:トランペット

3.11 被災地訪問演奏=福島県・南相馬公演と関連公演

■ [世田谷区内での] プレコンサート

- ・7月12日(日)、14:00開演
- ・会場:松原教会(世田谷区松原5-44-12、後日詳報)
- ・曲目:第112回定期演奏会より抜粋
- ・演奏:東京バッハ合唱団、石川優歌(オルガン)
- ・入場無料

■ [本番] 南相馬公演=第112回定期演奏会

- ・8月22日(土)、13:30開演
- ・会場:南相馬市民文化会館(ゆめはっと)
- ・曲目と演奏者などの詳細は、公演チラシ参照
- [リハーサル:8月18日、20日、18:00-21:00、荻窪教会]

■ [杉並区内での] 報告コンサート

- ・9月(日時未定、4月中旬に確定)
- ・会場:日本基督教団・荻窪教会(土曜練習会場)
- ・演奏:東京バッハ合唱団、石川優歌(オルガン)、他楽器未定(詳細準備中)

お・た・よ・り

西村 清志(後援会員、北海道小樽市)

月報で紹介されていた『従軍慰安婦と靖国』[田中克彦著、月報627号(2014年9月)で紹介]、『人類が永遠に続くのではないとしたら』[加藤典洋著、629号(2014年11月)]を読んで、両書には、禅でいう“無分別智”に着地点を見出そうとしているところが共通しているように感じました。それは大変に魅力的な場だと思います。その一方で「真・善・美を求める“こころ”」一人間と動物を峻別する最終領域一も、また大切だと思いました。

ヒトという本当にヤッカイな動物をコントロールできる“最後の砦”は、この“こころ”ではないかと最近は思っています。(3/3)

宮田 光雄(団友、宮城県仙台市)

いつもいつも「東京バッハ合唱団月報」をお送りくださり、大変面白く教えられつつ拝読しています。3月号では大村健二さんの「バッハ・カンタータと日本の距離」には深く考えさせられました。

8月の南相馬公演のための熱心な準備がなされている御様子を頭が下がる思いで読ませて頂いています。小生宛てに御招待状まで同封されていましたが恐縮の至りです。残念ながら小生は体調その他の事情で南相馬まで出掛ける余力がありませんが、遥かに御盛會を祈っています。(目下、最後の仕事として岩波現代全書の一冊に『カール・バルト——全体主義と闘った(神の愉快的パルチザン)』を、極めてスローペースで執筆中です。)

過日の「通信」でお知らせのあった合唱団基金のための募金に、貧者の一灯ですが少額のカンパを同封いたしました。御祝福を祈り上げつつ。(3/21)

南 吉衛(団友、三重県・桑名教会牧師)

「月報」ありがとうございました。

記事の中に、川戸さんがお亡くなりになられたこと、89歳のご高齢とは知りませんでした。バッハ合唱団関係の方が、遠路25名も葬儀に出られたとは、故人の素晴らしいお人柄のせいですね。

追悼文を書かれた荒井さんによろしく。

桑名に来て、一度も皆様の演奏会に出る機会がありません。東京が遠くなった気がします。どうぞ、お元気で。(3/30)

第113回定期演奏会 予告(来年度)

- ・2016年5月28日(土)14:00開演
- ・会場:府中の森芸術劇場ウィーンホール
- ・曲目:“日常生活のバッハ”
 カンタータ BWV 148 《み名の栄光を讃えよ》
 カンタータ BWV 40 《地に來ませり 神のみ子》
 カンタータ BWV 16 《主 ほめ歌わん》
 カンタータ BWV 192 《ああ感謝せん 神に》

〈宗教〉の恐ろしさと存在理由

大村 恵美子

人類にとって、〈宗教〉はありがたいものか、それとも迷惑なものなのか。神学者・哲学者たちの、時代と共に変遷する様々な教理の定義づけは、われわれ一般人にとっては何かついてゆくのも徒労のような、重苦しさを感じるようになっていく。最近新訳が出た機会にハルナック（1851-1930）の『キリスト教の本質』（深井智朗訳、春秋社、2014/6/19）を、読んでみた感想がそれで、あらためて、この19世紀末年の出現以来、国際的にロングセラーとなってきた名著を、なるほど、と納得する一方、それぞれの時代の読者たちの社会通念では、そのように肯定されたのだろうか、とか、あれこれ想像しなければならぬ、視点の不明瞭さも、大いに感じてしまう。

ヨーロッパでは、キリスト教の中で新・旧の勢力が反目しあって殺戮にまで及び、国家間の戦争もひき起こし、そのうえイスラム教を奉ずるオスマントルコとのぶつかり合いで、地球上の広大な地域での〈文明の衝突〉がしのぎを削り合いつづけた。その影響が現代にまで尾を曳いて、〈十字軍〉の脅威が、機を得ては頭をもたげてくる。そしてついに、昨今は十字軍撲滅を標榜する、無手勝流の新手の暴力IS（自称イスラム国）が躍り上がり、既存のあらゆる秩序破壊に爆進して、われわれの心胆を寒からしめている、という事態になってきた。

創立50周年に沸いたわが合唱団も、また新しい半世紀に臨んで、バッハとの取り組みをあらためて構想し直しているところだが、このように騒然とした世界情勢に、18世紀のヨーロッパ・キリスト教圏から花咲いたバッハの音楽が、アジアの片隅の、大小の諸文明の溜り場である日本という国で、どのような意味を投げかけてくれるのか、もういちど捉え直してみたい気になる。

この50年間で、私たちは、バッハのカンタータの、200曲中約140曲を演奏してきて、残るは約60曲となった。現実的には、ポピュラーなもの、合唱が活躍できるもの、内容が普遍的で、どちらかといえば明かしく、建設的で、しあわせな気持ちになり、元気が出るようなもの——そんな面のつよいバッハを、求めて来たようだ。もちろん私の性向が大きく左右している結果だろう。ここで、私があとまわしにした作品群に、主として内容面でどのような共通点があるのかと、自省する意味で、その60曲を一気に聴いてみた。

演奏を始めたころの私から、50年を経たいまの私の立場では、当然かねがね予想していたことではあったが、人生経験の幅が広まり、当面ことにマークされるように、カンタータのテキストの中で「悪すらわが益、死もわが生なり」（BWV 92/1）という、どちらかといえば若年期には避けたがっていたテーマが、なんと、しみじみと肯定的に受け入れられるようになったのである。まるで、こちら側の変化をこれらの音楽がじっと

待っていてくれた感じもする。

大々的に、鳴りもの入り（トランペット・ティンパニ）の輝かしい曲よりも、木管や弦などが歌う室内楽的な編成で、悲しさ、苦しさ、孤独、死、病い、神からの離脱へのおそれ、等々、実人生でも出遭いを避けたいようなテーマの作品が、多く残っている。そして、同じバッハでも、最後には神の救いと慈悲を受け入れ、幸なるかなとハッピーエンドになるのもあれば、ぎりぎりまで追い求めながら、どうしても心におさまらないで、「信仰なきわれを顧みたまえ」と血涙くだる祈りに終わるものも、少なくない。バッハは、実生活においても、近親者と次々に死別し、権力争いの巻き添えで入牢することもあり、減俸も蒙り、愛憎の交替に悩まされることもしばしばだった、結構起伏の多い人生だったようである。

思いがけない長寿に面くらっている私自身は、敗戦後せっかく希望していた世界平和には恵まれず、古来から相変わらず人を陥しこめる〈宗教〉の鉄鎖が、手をかえ品を変えて復活しては、現在と未来の展望を打ち砕いてゆく。憎しみの表現も、日に日に残酷さを加速してゆく。私は、これまでも月報でつづけさまに悲鳴をあげて来たように、人を殺すのは絶対に宗教と認めない、と、どなりたい。何も進歩しない人類に、殺すな、だけを教育せよ、と訴えたい。

残されたバッハのカンタータに多い、人生の暗い面に眼を向けるテーマにも、この年になって、私は親しさをおぼえ、だめな人、だめなこと、だめなものは何でも排斥し、殺すという人間のエゴイズムを、むしろそのまま抱きこんで、そんな存在でも——否、むしろそんな存在をこそ生かそうとするものがあれば、それを〈宗教〉と認めたい。バッハも、同時代の強く固い枠にはめこまれた人生を生きたが、後世の私たちに、それらを、なつかしい音楽にとり入れて、大らかな気分でも渡してくれている。ここを見ならって、すごしいものだと、私は切望する。それでこそ、限定された人生を、永遠に生きる道なのだろう。

◆お待たせしました！ 4/20 発行予定です

— 創立50周年記念誌 —

『東京バッハ合唱団 半世紀の歩み』

(B5判・240頁、頒価2000円・送料350円)

半世紀の金字塔、手にとってご覧ください。『三十年の歴史』^{*}以降の集大成です。

創立50周年祝賀メッセージ、《マタイ受難曲》、《ヨハネ受難曲》を終えての出演者の感懐、最近10年間の主なる月報記事再録、「バッハ合唱団をとりまく人々」（大村恵美子記）、創立より50年間のフォトアルバム、全公演記録・演奏曲目一覧など。

売上げは、合唱団運営費に充当させていただきます。

^{*} 創立から、苦難を乗り越えて…、大村恵美子『東京バッハ合唱団 三十年の歴史』（1992年刊、四六判・350頁、頒価3000円・送料350円）、残部僅少。

[東京バツハ合唱団・支援基金] 開始

本年2月号「月報」挟み込みのご報告のとおり、「創立50周年記念ファン」は、感謝のうちに2014年12月をもって終了いたしました。

- ・達成金額：3,260,000円
- ・応募人数：述べ194名（重複の方を含む）

多くの方の参画と多額のご寄付額を達成させていただき、お蔭をもちまして滞りなく、創立記念事業のすべてを無事に終了することができ、「創立50周年記念誌」の発行を待つばかりです（前ページにご案内）。

すでにご案内のとおり、この流れをひきついで形で、東京バツハ合唱団「支援基金」をスタートいたしました。詳細は右の囲みをご覧ください。

さっそくに下記の方々よりのご賛同とご寄付を頂戴いたしました。こころより御礼申し上げます。

<2014年12月>（※）

001 篠原亮子、002 山本栄子、003 山本裕子〔敬称略〕

<2015年1月-3月>

004 村瀬喜久子、005 有家朋子、006 平原恵子、007 浜島和子、008 吉田 弘、009 丸山道雄、010 村松充雄、011 恒松恭子、012 宮田光雄〔敬称略〕

[東京バツハ合唱団・支援基金]

合唱団が活動をつづけてゆくかぎり常設し、経済的基盤の一つとしてその運営をサポートしていただくとするものです。「後援会」のように定期演奏会へのご招待の特典はありませんが、金額や期間・期限を定めずに、思いいつたときにいつでも応じていただければと願っています。

- 「支援基金」（サポーター会員）の規定
 - ・ご寄付金額はご自由（事務手続きの効率上、5000円以上とさせていただけると幸いです）。
 - ・ご応募くださった方を「サポーター会員」として、次回公演プログラムにお名前を記載させていただきます（匿名ご希望はお申し出ください）。
 - ・次回以降の公演のご案内を差し上げるDMリストに登録させていただきます。
 - ・ご登録時から1年間の「月報」を送付します。

●お申込み方法

・郵便局備え付けの振替用紙（払込取扱票）の通信欄に、「支援基金」とご記入いただき、ご住所・お名前・電話番号をお書き添えのうえ、下記にお振込みください。

- ・口座記号：00190-3
- ・口座番号：47604（右詰めで記入）
- ・加入者名：東京バツハ合唱団
（領収証の発送をもって、ご登録とさせていただきます）

※）旧・記念ファンへの最終月のご寄付の方々を編入させていただきました。3ケタ数字は登録番号です。

[後援会会計報告] ●2014年度前期（2014年7月-12月）

<新規加入> 品川真理子〔敬称略〕

<継続会員> 高野京子、風岡和子、與語基宏、菅間五郎、池口康夫、花井鉄弥、丸山真人、稲本佑子、務台孝尚、菅原昌子、小島陽子、箕浦正敏、重近 徹、瀬底恵子、市川義和、松原 誠、吉田佐貴子、小口幸成、高村明子、川戸龍夫（2015/2/20 歿）、中村美子、青田 健、恒松恭子、鈴木玲子、小堀徳子、松崎清子、渡辺さち子、武藤京子、鈴木 靖、加藤道子、高田功二、小出邦子、阪根隆司、本郷容子、堀 甲子、高橋美千子、猪狩恭子、東海林勝美、原田知子、田中玲子、三浦 隆、中西 碧、山本裕子、布施靖子〔敬称略〕

<寄付> 猪狩恭子、田中玲子〔敬称略〕

●2014年度前期（2014年7月-12月）

項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前期合計
収入							
後援会費	70,000	111,000	60,000	120,000	72,000	164,000	597,000
寄付金	0	0	0	0	0	18,000	18,000
<収入合計>	70,000	111,000	60,000	120,000	72,000	182,000	615,000
支出							0
事務局費	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	420,000
渉外費	5,000	15,000	3,600	0	15,000	15,000	53,600
通信費	45,460	49,680	0	10,240	61,700	20,000	187,080
事務費	8,200	4,500	0	10,400	5,000	45,110	73,210
雑費	0	0	0	0	0	0	0
<支出合計>	128,660	139,180	73,600	90,640	151,700	150,110	733,890
							0
当期収支差額	-58,660	-28,180	-13,600	29,360	-79,700	31,890	-118,890
前期より繰越	(*)-107,325	-165,985	-194,165	-207,765	-178,405	-258,105	(*)-107,325
累計(来期へ)	-165,985	-194,165	-207,765	-178,405	-258,105	(*)-226,215	(*)-226,215